

令和4年度広瀬川における天然アユ遡上調査結果（5月分）

令和4年6月13日
宮城県水産技術総合センター
内水面水産試験場

宮城県水産技術総合センター内水面水産試験場では、アユ釣り解禁前の情報提供と資源管理のための基礎データを得るため、毎年5月と6月に広瀬川において、天然アユの遡上状況を調査しています。本年度の5月分の調査結果は、以下のとおりです。

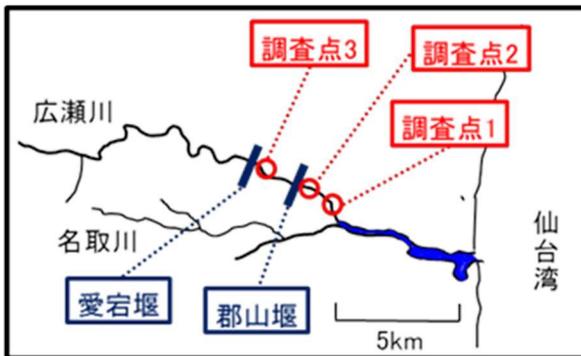


図1 アユ遡上調査地点

(1) 調査点

- 調査点1：名取川との分岐点から500m上流（河口から7.5km）
- 調査点2：郡山堰下（河口から10km）
- 調査点3：愛宕堰下（河口から11.5km）

(2) 調査実施日

5月9日，27日

(3) 調査方法

各調査点において、投網を10投し、1投あたりの平均採捕尾数を求めました。また、1調査点あたり50尾のアユを当场に持ち帰り、体サイズ（標準体長および体重）を測定しました。広瀬名取川漁業協同組合では、調査日以前に人工種苗のアユを放流しているため、測定した50尾のアユから人工種苗の混入率を算出し、求めた平均採捕尾数の値を補正しました。



図2 調査風景①



図3 調査風景②



図4 採捕したアユ

(4) 調査結果

①各調査地点の天然アユの平均採捕尾数

各調査地点における天然アユの平均採捕尾数（平成27年から令和元年までの最大値と最小値を除いた平均値及び直近3ヶ年）を図5に示しました。

・調査点1

投網1投あたり26.8尾（5月上旬）、23.0尾（5月下旬）でした。上流の調査地点に比べ河口に近いので、天然アユの比率が高く、小型のアユが多く見られました。

・調査点2

投網1投あたり18.6尾（5月上旬）、23.3尾（5月下旬）でした。過去2年と比べて多くのアユが採捕されました。

・調査点3

投網1投あたり採捕無し（5月上旬）、2.7尾（5月下旬）という結果でした。調査地点2において多くのアユが見られているにもかかわらず、上流の調査点3では採捕尾数が少なかったことから、多くのアユが郡山堰下に滞留していたと考えられます。しかし、増水時には斜路式魚道から上流部へ移動するアユの姿も観察されていることから、遡上尾数は今後増えていくと考えられます。

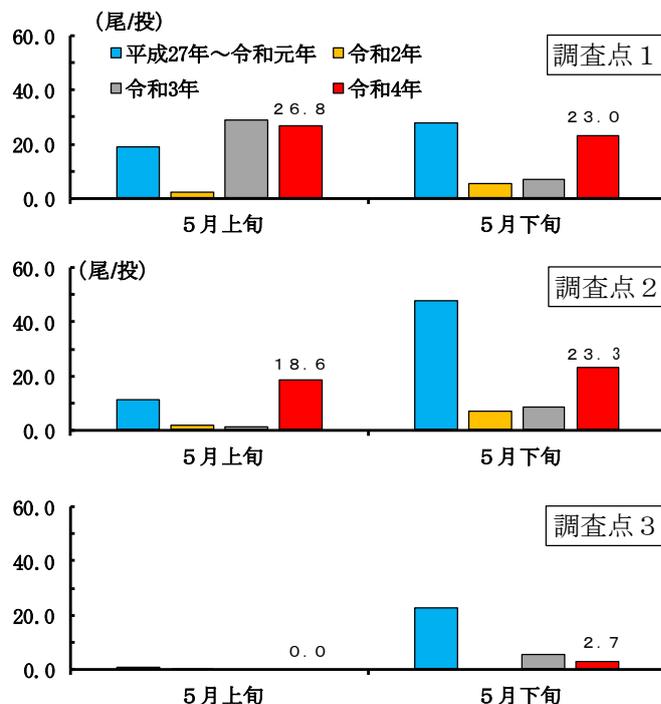


図5 各調査地点における天然アユの平均採捕尾数

②調査点2で採捕した天然アユの体サイズ

調査点2で採捕した天然アユの体サイズ（標準体長および体重）の平均値を表1に、散布図を図6に示しました。5月に採捕したアユは体長8～11cmほどの個体を中心でしたが、最大で13cmほどの大型個体も見られました。また、令和3年度及び4年度に採捕したアユでは、標準体長及び体重ともに有意な差はありませんでした。

表1 調査地点2での天然アユの体サイズの平均値

採捕年月	標準体長(cm)	体重(g)	標本数
R3.5	8.77±2.20	11.6±10.28	N=56
R4.5	9.18±1.42	11.7±6.18	N=89

※平均±標準偏差(個体群のパラツキ)

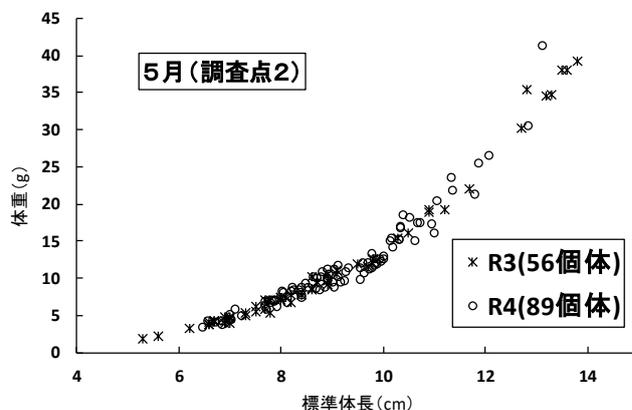


図6 調査点2でのアユの標準体長と体重の関係